普　及　指　導　情　報

「低温等に伴う農作物等対策情報について」

（第８４号）

令和７年１月３１日

佐賀県農業技術防除センター

（普及指導情報　第８４号）　　令和７年１月３１日

（表題）低温等に伴う農作物等対策情報について

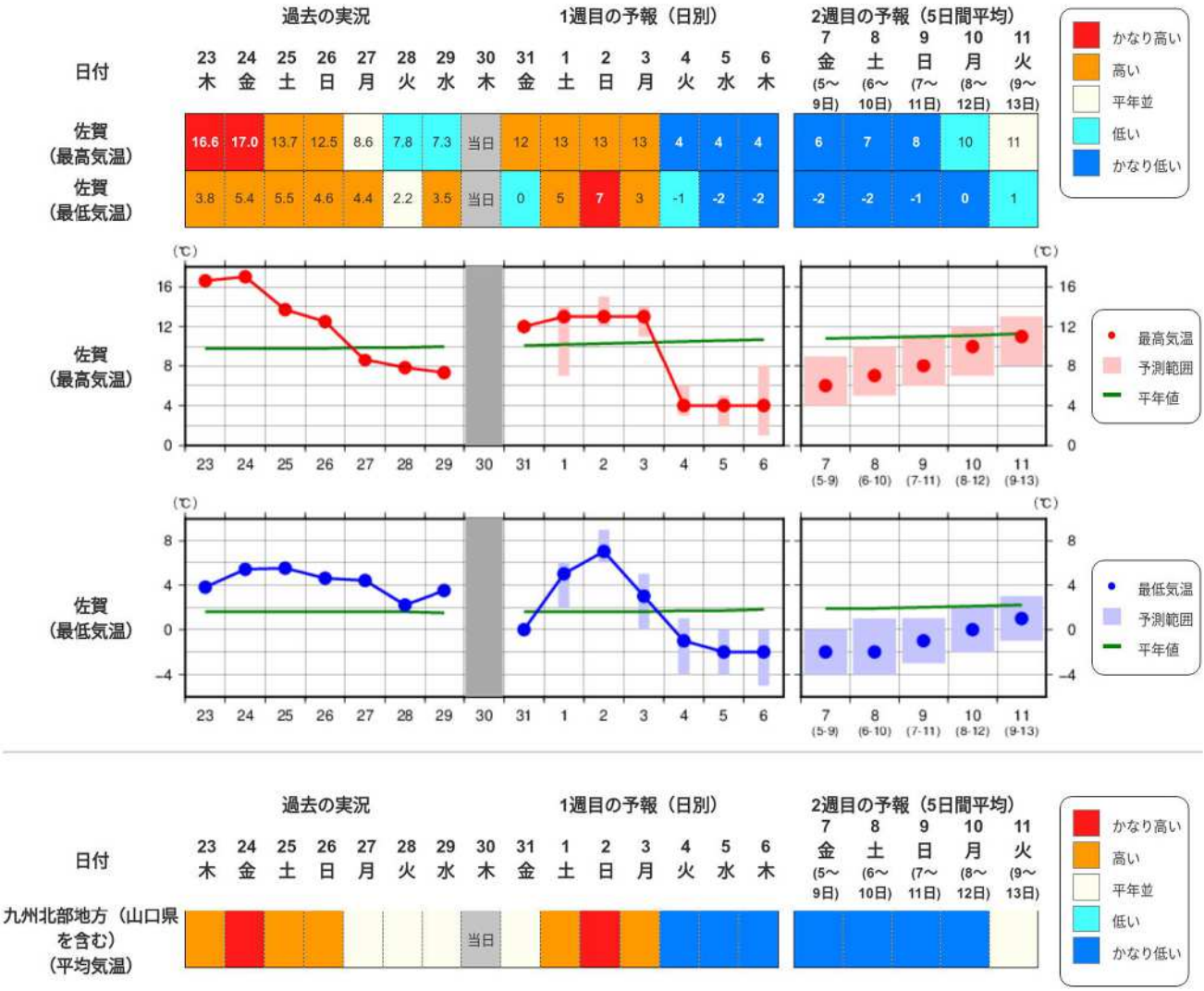
（担当）農業技術防除センター　専門技術部

○気象庁によると、本県を含む九州北部地域では、２月４日（火）から８日（土）にかけての気温がかなりの低温となる見込みです。

○このため、低温等に伴う技術対策を別紙のとおり取りまとめましたので、業務の参考にしてください。

【参考】

●気象庁　九州北部地方の２週間気温予報（１月３０日１４時３０分更新）



佐賀県農業技術防除センター

1　園芸用施設（野菜・花き・果樹共通）

〔低温・寒害対策〕

（１）無加温の施設では被覆資材を活用し、気密性を高める工夫を行い、保温性を高める。
（２）加温機の保守・点検や燃料の確認を行う。また、施設内の隙間を無くし、保温資材を活用して燃油の節減に努める。
（３）施設果菜類は、低温が続くと収穫までの日数が長くなって着果負担が増大し草勢低下につながるので、日中加温等によって曇雨天日の日中温度の確保に努める。
（４）施設花きでは、低温により開花遅延が起こりやすいため、適正温度の確保に努める。
（５）加温機が長く稼働する日は、曇雨天であっても蒸散しているため、灌水を控え過ぎないよう少量ずつこまめに灌水する。
（６）夜に加温機が稼働せず、日中曇雨天で換気をしない日は、ハウス内の湿度が高くなるので、早朝加温や日中加温しながら隙間換気をして除湿を図る。また、灰色かび病、菌核病等が多発するおそれがあるため、夜間にカーテンを少し開けるなどしてできるだけ加温機を運転させ、かつ終日、循環扇を稼働して結露を防止する。
（７）無加温ハウスでは、必要に応じて応急的に家庭用暖房機を活用するなど、寒害の回避に努める。この場合、火災や不完全燃焼に注意する。
（８）凍結のおそれがある場合、灌水用の配管やポンプ等については、事前に凍結防止対策に努める。

〔積雪対策〕

（１）寒冷紗や防風ネットなど雪が滑り落ちにくい資材は天井から除去する。
（２）ハウスに積雪し始めたら、二重カーテンを開け加温設定温度を上げる。
（３）ハウス天井部の支柱の補強に努める。
（４）連棟ハウスは谷部の除雪に努める。
（５）ハウスが倒壊するおそれがある場合は、ビニルを除去する。

〔強風対策〕

（１）防風垣や防風ネットは補強し、整備を行う。
（２）ハウスバンドは緩みを直し、杭の補強を行う。
（３）北側や西面にある出入口はビニル等で覆う。
（４）ハウスの妻面上部や中央部を中心にして、防風ネット等で覆い、ビニルの浮き上がりを防ぐ。
（５）換気扇は換気口を閉じ、密閉度を高めて、ビニルのバタつき、浮き上がりを防ぐ。

2　露地野菜

（１）寒風による寒害を防ぐため、防風垣や防風ネットの点検を行う。
（２）地温低下による根の被害を防ぐため、畦上への切わら散布や培土、マルチ等を行う。
（３）夜間晴天で特に翌朝の冷え込みが予想される場合は、不織布等の資材を直接べたがけして、寒害防止に努める。

（４）極早生、早生のある程度大きくなっているタマネギは、積雪時に雪の重みで葉折れしやすく、傷部から病害が侵入するおそれがあるので予防防除に努める。
（５）結球成熟期のキャベツやハクサイでは結球葉が寒害を受けやすいので、キャベツでは肥切れさせない、ハクサイでは結球部を外葉で包み込む等の対策をとる。
（６）寒害や雪害を受けた場合は、細菌病、灰色かび病、菌核病等の予防防除を直ちに行う。

３　果樹

（１）中晩柑類は、凍害（果実の氷結点－3℃。外気温－3.5～－4℃で発生）によりス上がりや苦み、果皮障害が発生するので、収穫できるものは早めに収穫する。早期収穫できない品種では、果実の袋かけや樹体に防寒布等を被覆し防寒する。
（２）施設中晩柑栽培で－3℃の低温が長時間以上続くおそれがある場合は、加温機やストーブ等暖房機器により施設内を保温する。
（３）貯蔵は外気温に応じて、品種別の適切な貯蔵方法により管理を行う。貯蔵場所が極端に冷え込むことが予想される場合は、毛布やブルーシート等による保温を行う。
（４）圃場内に冷気が停滞しないよう、防風樹の裾部を刈り上げる等の対策を行う。
（５）施設でビニルが破損するなどの被害が生じた場合は、早急に修復し、樹体を低温から保護する。
（６）ビニルが破損したハウスでは急激な昇温は避け、当分の間はやや低温条件で管理し、落果防止等に努める。

４　畜産

（１）家畜の観察をこまめにし、異常家畜の早期発見に努める。併せて、水道管の凍結等による断水等がないか確認を行う。
（２）寒さに弱い子牛（哺乳期）の防寒対策として、カーボンヒーター（電熱器）の設置やジャケットの着用など牛体の保温を行う。また、敷料の交換や厚敷にすることで牛床が常に乾燥している環境を整える。
（３）畜舎を保温するため、畜舎を密閉すると家畜や糞尿から発生する炭酸ガス、メタンガス、アンモニアガスなどが畜舎内に充満し家畜の健康に影響するので、直接畜体にすき間風が当たらないように工夫して換気を行う。